授業科目	＊助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）					実務家教員担当科目	○
単位	1	履修	必修	開講年次	1	開講時期	前期
担当教員	前田　幸、山田　恵、新郷　朋香						
授業概要	分娩期の助産診断のためのフィジカルアセスメント及び産婦と家族の心理・社会的側面からケアに必要な知識を解説し、演習により安全・安楽をふまえた助産技術の習得ができるよう支援する。						
授業形態	講義・演習			授業方法	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1．産婦のケアに必要な基礎的知識について説明できる。 2．産婦の健康状態を正常および正常からの逸脱について根拠に基づき説明できる。 3．産婦に必要なケアの習得において主体的に取り組むことができる。 4．倫理観をもち産婦のケアを安全・安楽に基づき実施できる。
理想的レベル	標準的レベル 1～4 の全てを達成したうえで、知識に関してはより詳細な説明ができる。技術・態度に関しては習得した知識を技術・態度に応用することができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	60%	再試験は筆記試験にて評価します。
小テスト	15%	
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）	15%	演習への取り組みやディスカッションへの参加・発表状況について評価します。
レポート外の提出物	05%	講義・演習中の記録物に関して評価します。
その他	05%	その他として態度やレポートの提出期限について評価します。

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	MI21202J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
予習：提示された事前学習を行う 母性看護学で学習した内容を見直しておく 復習：該当部分をまとめる、自己練習を行う	1

授業計画

第 1 回	テーマ：産婦の健康診査（前田幸） ・診察技術の概要と方法について解説する。 ・分娩経過における母子の健康診査に必要な処置や検査について解説する。

第 2 回	テーマ：分娩期の経過診断（１）（前田幸） ・分娩開始の診断と対応について解説する。 ・分娩の 3 要素を中心に分娩の経過および母子の健康診断について解説する。
第 3 回	テーマ：分娩期の経過診断（２）（前田幸） ・分娩の 3 要素を中心に分娩の経過および母子の健康診断ついて解説する。
第 4 回	テーマ：分娩期の経過診断（３）（前田幸） 演習① CTG の判読 ・事例を用いて CTG の判読演習を行う。
第 5 回	テーマ：分娩期の産婦の支援（１）（前田幸） ・分娩経過に沿った産婦及び家族の支援について解説する。
第 6 回	テーマ：分娩期の産婦の支援（２）（前田幸、山田恵、新郷朋香） 演習② CTG モニター装着、産痛緩和、呼吸法、内診、胎盤計測、出生直後の児の観察について演習を行う。
第 7 回	テーマ：分娩期の産婦の支援（３）　（前田幸、山田恵、新郷朋香） 同上
第 8 回	テーマ：分娩期の助産技術（１）（前田幸） ・分娩介助法 分娩の意義および原理、分娩介助技術の方法について解説する。
第 9 回	テーマ：分娩期の助産技術（２）（前田幸、山田恵、新郷朋香） ・分娩期に取り扱う記録について解説する。 演習③ パルトグラム・助産録の記載方法 ・分娩期に扱う記録について実際にパルトグラムを記載しながら演習を行う。
第 10 回	テーマ：分娩期の助産技術（３）（前田幸、山田恵、新郷朋香） 同上
第 11 回	テーマ：テーマ：産婦の支援（４）（前田幸、山田恵、新郷朋香） 演習④ 分娩介助 ・分娩介助について解説を交えながらのデモンストレーションを交え解説する。 ・産婦、直接介助者、間接介助者の役割を理解し演習を行う。
第 12 回	テーマ：分娩期の助産技術（４）（前田幸、山田恵、新郷朋香） 演習⑤ 分娩期のケア ・事例を用いて分娩介助の方法、産婦の支援について情報収集、アセスメントを行い、記録を行う。

	・ディスカッションを行い、学びや気づきを共有し、レポートにまとめる。
第 13 回	テーマ：分娩期の助産技術（５）（前田幸、山田恵、新郷朋香） 同上
第 14 回	テーマ：分娩期の助産技術（６）（外部講師） ・フリースタイル分娩の介助技術について解説する。
第 15 回	テーマ：分娩期の助産技術（７）（外部講師） 演習⑥ フリースタイル分娩介助 ・講師の助言をもとにフリースタイル分娩の介助について演習を行う。
テキスト	助産学講座 6　助産診断・技術学［2］分娩期・産褥期　我部山キヨ子他編　医学書院 助産師基礎教育テキスト第 5 巻　分娩期の診断とケア　佐々木くみ子編　日本看護協会出版会 病気がみえる　Vol.10 第 4 版　MEDIC MEDICA 根拠と事故防止から見た母性看護技術　　石村由利子編　　医学書院 産婦人科診療ガイドライン　産科編 2023　発行：日本産婦人科学会　編集・監修：日本産婦人科学会/日本産婦人科医会
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	科学的根拠にもとづく快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン 2013　厚生労働科学研究妊娠出産ガイドライン班　金原出版株式会社 エビデンスに基づく助産ガイドライン-妊娠期・分娩期・産褥期 2020　一般社団法人日本助産学会ガイドライン委員会　日本助産学会 助産業務ガイドライン 2019　日本助産師会助産業務ガイドライン改訂検討特別委員会 今日の助産　マタニティサイクルの助産診断　北川真理子他編　　南江堂 WHO の 59 か条お産のケア実践ガイド　戸田律子訳　　農文協 他、指定図書も参考にしてください、必要に応じて資料を配布します。
課題に対するフィードバックの方法	小テスト、レポートや課題、演習に関してのフィールドバックは授業中もしくはクラスルームにて行います。
学生へのメッセージ・コメント	母性看護学に関する知識と看護技術について復習しておいてください。 講義で得た知識や助産技術の方法を演習を通して実施します。そのため、知識はもちろん正しい技術の習得や助産師としての態度を身につけるために助産診断・ケア学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵと関連づけて学習し、予習・復習をして授業に臨んで下さい。 技術の習得をするために、練習時間をとりますので各自、技術練習に励んでください。 演習では、身だしなみを整えて臨み、模型などの教材は丁寧な取り扱いを心がけましょう。 準備・後片付けも自主的に行いましょう。感染対策に留意した行動をとりましょう。